

植物 83

霧島山の植物

植物担当 青木 直子

現在開催中の企画展「そうだったのか！霧島山」では、霧島山の知られざる魅力を紹介しています。今回は、霧島山の植物について紹介します。

牧野富太郎と霧島山の植物

この 4 月から放送されている朝の連続テレビ小説の主人公のモデルは、植物学者の牧野富太郎博士です。牧野博士は独学で分類学を学びながら日本各地を巡り、約 40 万点という膨大な数の標本を残しました。鹿児島県には 6 回訪れ、霧島山で「植物夏期講習会」の講師を務めたり、屋久島の宮之浦岳に登ったりしながら調査を行ったそうです。

1909 年（明治 42 年）に霧島山を訪れた際には、猛烈な豪雨に見舞われ、遭難しかけたという話もあります。

生涯で約 1,500 種の植物を命名したとされる牧野博士が命名した植物の中で、霧島山と縁がある植物を 2 つ紹介します。

～ノカイドウ～

ノカイドウは、世界中で霧島山だけに自生するバラ科リンゴ属の植物です。ほとんどの個体が、えびの高原の長江川の源流沿いに自生しています。

4 月から 5 月上旬にかけてのわずかな期間に、桃色がかった白い花をつけます。また、花のつぼみは紅色で、つぼみから開花まで色の変化を楽しむことができます。

4 月 9 日に訪れた際は、紅色のつぼみでしたが、4 月 24 日に訪れた際には、白い可憐な花が咲き誇っていました。今回観察に訪れた 4 月 24 日は、牧野博士の誕生日にちなみ「植物学の日」とされています。牧野博士の誕生日を盛大にお祝いしているかのように見事な咲きぶりでした。

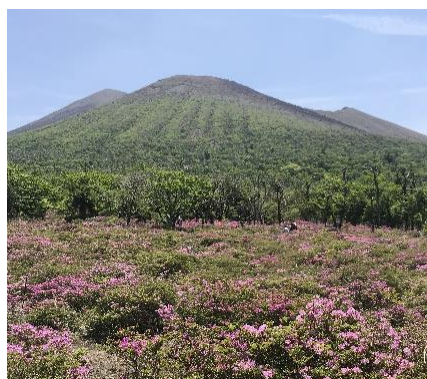
しかしながら、鹿の食害などで個体数が年々減少し、絶滅の危機に瀕しているという現状があります。えびの高原のつつじヶ丘では、シカの食害を防止するための防護柵で囲むなどの保護活動が行われています。世界中で霧島山にだけ生えているノカイドウを、これからも大切に残していきたいものです。



つつじヶ丘のノカイドウ（令和 5 年 4 月 24 日）

～ミヤマキリシマ～

それまでキリシマツツジと呼ばれていた植物に、「深い山に咲くツツジ」という意味でミヤマキリシマ（深山霧島）と学術的に名前をつけたのが牧野博士です。霧島山以外でも、雲仙や九重など離島を除く九州各地の高い山の乾いた低木林内で見られ、5 月から 6 月に花をつけます。花が咲き誇る様子を、霧島山に見に行くことを楽しみにされている方も多いのではないのでしょうか。霧島山の標高 1,100 m～1,500 m の高地に生えることが多いですが、高千穂河原の駐車場から徒歩 10 分程度で行くことができる標高 1,021 m の鹿ヶ原は、ミヤマキリシマの群生地となっており、今年も開花のタイミングが合えば、高千穂峰をバックに一面に広がるピンク色のミヤマキリシマを見ることができるともかもしれません。



鹿ヶ原のミヤマキリシマ（令和 4 年 5 月 22 日）